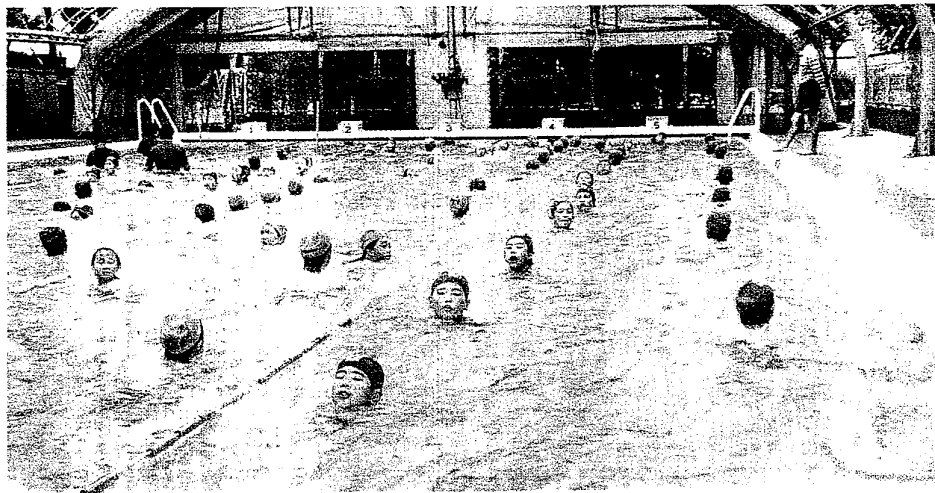


5 ゆきおの挑戦ちようせん



「今年も松原小学校の伝統的な行事、錦江湾横断遠泳きんこうわんおうだんえんえいに向けての活動が始まるぞ。つらい練習を乗り越え、錦江湾を完泳かんえいしたとき、ただ泳げるようになったというだけでなく、やりとげる感動が味わえると思う。」
五年二組担任たんにんの永田先生ながたが、帰りの会で話をしています。

（ついにこの時がきたぞ。ぼくは、松原小学校に入学したときから、この錦江湾横断遠泳への挑戦ちようせんを決めていたんだ。去年のくやしきもあるし、ぜったいに完泳してみせるぞ。）

先生の話聞きながら、ゆきおは、挑戦できるうれしきで、なんだかわくわくしていました。そんなゆきおに、同じ学級のさとりも、

「ゆきおくん。今年はいっしょに泳げそうだね。鹿児島さくらの海と風と桜さくら島しまを感じながら泳ぐ錦江湾横断遠泳。すごくやりがいがあるよ。もちろん、練習はつらい時もあると思う。でも、そこを乗り越えなきやできないことなんだ。がんばろうな、ゆきおくん。」

と、声をかけてきました。ゆきおも元気よく、

「うん。がんばってぼくもさとり君と泳ぐぞ。楽しみだなあ。」

と、答えました。

鹿児島市立松原小学校には、四年生から参加できる錦江湾横断遠泳という行事があります。四年生のとき、ゆきおは、けがをして参加をあきらめてしまったので、今年初めて錦江湾横断遠泳に挑戦することになるのです。

しかし、だれでも錦江湾横断遠泳に参加できるわけではありません。放課後、毎日行われるきびしい練習にたえて、四キロメートルを泳ぐ力を身につけなければならないのです。一人一人泳ぐ力がどれくらい身に付いているかは、毎週末の検定で確かめられます。この検定はプールで行われ、プール一周七十メートルを、大きく回って泳ぎ、決められた周回数しゅうかいすうを、足をつかずに、決められた時間内に泳ぎきるといふものです。五周・十周・二十周・三十周と検定が行われ、最後が四十周の検定で、これに合格した人が、錦江湾横断遠泳に参加することができます。

六月の終わり、練習を始めて約二か月が過ぎ、四十周検定が近づくころになると、ゆきおの気持ちは不安でいっぱい、何だか毎日の練習がとてもつらいものに感じられていました。最初は

二十五メートルがやっと泳げるくらいだったゆきおも、少しずつ長い距離きよりを泳げるようになっていましたが、四十週の検定には一度も合格できないでいたのです。

そして、いよいよ最後の四十周検定の日がやってきました。

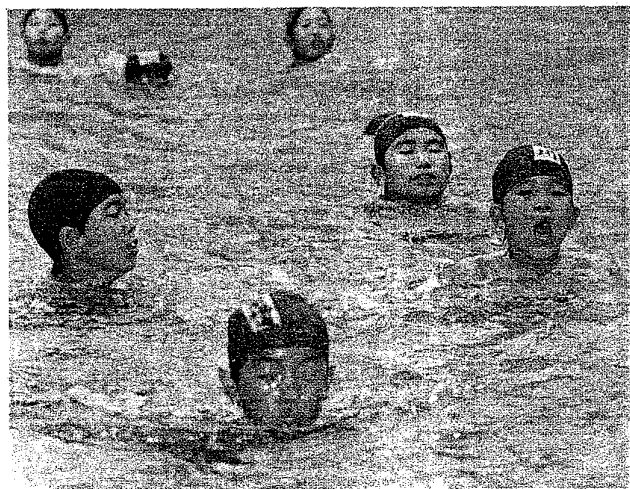
「四十周検定スタート。」

というコーチの先生の合図がプールにひびきます。プールサイドの友達やお母さんたちの声えんを受けながら、二列になって、ゆっくり泳ぎ始めました。ゆきおも、必死になって泳ぎました。

プールの底と空とを、何度も何度も見ました。順調じゆんちように周回数しゆくすうが減へっていきます。ところが、三十周目に入ろうとしていたときのことです。ゆきおは「がぶつ」と水を飲んでしまいました。息ができなくて、苦しくてたまらなくなりました。頭の中に、これまでの検定で足をついたときの様子さまじが浮かうかできます。泳ぎ方にも、力が入り過ぎてうまく進むことができません。

（もうだめだ…。）

と思ったとき、ゆきおのすぐ後ろを泳ぐさとするが、

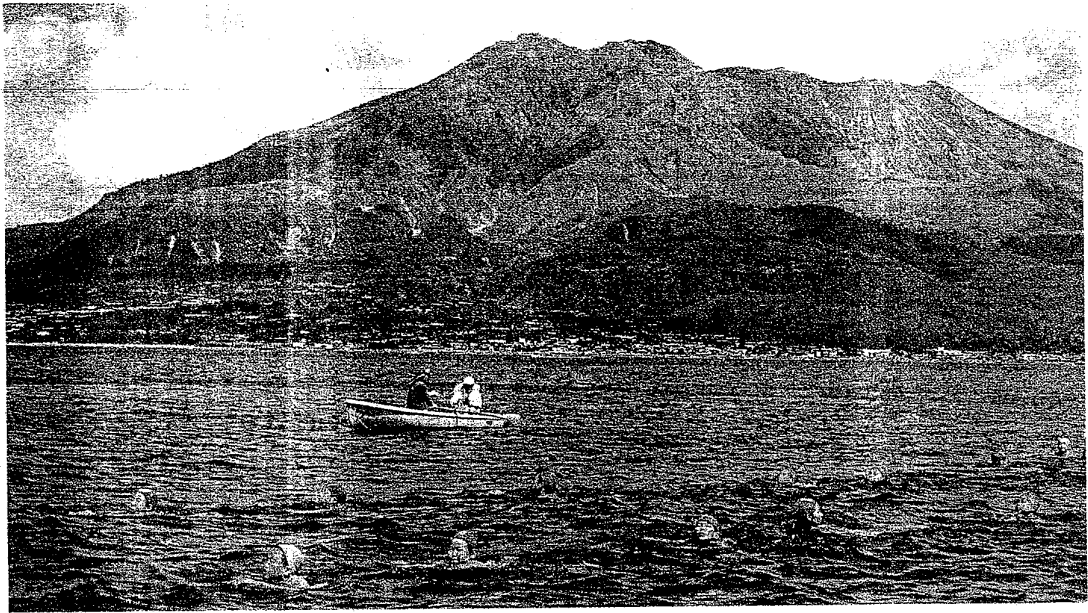


「ゆきおくん、がんばれ。今までの練習を思い出せ。ゴールはもうすぐだぞ！」
と、声をかけてきました。その声を聞いたゆきおの頭の中に、ここまでの二か月間の自分の姿がうかんできました。

練習開始の五月。プールの水はまだまだ冷たく、体が、がくがくふるえます。あまりの冷たさに、プールから逃げ出したいと思うときもありました。その上、同じクラスのほとんどの友達には、二回目の挑戦者が多く、みんなすいすい泳げます。分かっていたこととはいえ、ゆきおは自分だけ取り残された気分になったこともありました。いっしょに練習をしている初挑戦の四年生が、どんどん合格するのを見ていると、なんだか複雑ふくざつな気持ちになったこともありました。それでも毎日練習に参加して、少しずつ泳げるようになってくる自分をうれしく思っていたのです。錦江湾をめざしてがんばってきたのです――。

「あと十周。がんばれ！」

コーチの先生の声が聞こえました。ゆきおはなみだが出てきそうになるのを必死にこらえて、とにかくせいっぱい泳ぎました。あと十周が苦しく長い時間に感じられました。しかし、確実に



ゴールへと向かっています。

「あと一周。あと一周。」

プールの周りがすごい声えんに包まれました。泳いだ距離二・八キロメートル、時間にして七十五分間のゴールが、もう目の前です。残り二十五メートル。先頭からどんどんゴールしていきます。残り十メートル。ゆきおにもゴールがはっきりと見えています。そして、水しぶきがきらめく中、ゆきおもゆつくりとゴールの壁にタッチしました。さとも自分のことのように喜んでいきます。苦しさをあとを体にはじませながら、ゆきおは、目にはなみだをうかべていましたが、顔は笑顔でいっぱいでした。

七月。たくましさを増した子どもたちの錦江湾横断遠泳が行われました。青い空のもと、雄大な桜島を背中に錦江湾を泳ぐその隊列の中には、自信にあふれた顔で、うれしそうに泳ぐゆきおのすがたがかがやいていました。